

会 議 記 録				
会議の名称	広報広聴会議			会議場所 全員協議会室
				担当職員 数井
日 時	令和6年8月23日（金曜日）			開 議 午後 1時00分
				閉 議 午後 2時55分
出席委員	◎大塚 ○三上（広報部会長） ○松山（広聴部会長） 竹内 法貴 梅本 林 片山 山木			
執行機関 出席者				
事務局 出席者	吉田局長、数井次長、福沢主査、田中主事			
傍 聴	可	市民0名	報道関係者0名	議員0名（ ）

会 議 の 概 要

13:00～

○開 議

【事務局日程説明】

1 広報部会の活動について

<三上副委員長（広報部会長）>

議会だよりNo.202の掲載事項について確認した。9月議会の様子、議場見学会の報告、事務事業評価含め決算の特集などを掲載予定である。No.201号の表紙や議会モニターの記事について感想あればお願いしたい。

<松山副委員長（広聴部会長）>

議会だよりNo.201号は、議会モニターの感想が刺激的であったと読者から伺った。このように、引き続き議会モニターが感じたことを載せていただくなどしていければよいと思う。今議会号は議場見学会の掲載についてお世話になり、わがまちトークが9月議会後に始まっていくため、広報部会の委員にもお世話になるとともに、次の議会だよりになると思うが、掲載について連携できればと思う。

13:11

2 広聴部会の活動について

<松山副委員長（広聴部会長）>

8月17日（土）に市役所7、8階にて「第二回ワクワク議会たんけん！夏休み子ども議場見学会」を実施し、皆さんには大変お世話になった。対象者は、亀岡市内在住の小学生で、市ホームページやLINE、市議会だより等を活用して参加者を募り、小学校1～5年生計17名で、初参加16名、2回目1名であった。市民の声を聞く場として、参加者及び引率者に協力いただいたアンケートを別紙①のとおりまとめたので、確認願いたい。また、活動を終えての広聴部会委員の意見として、名札プレートなどの消耗品の準備不足があったこと、あいさつが固くなったことがあり、明智かめまる君を呼ぶなど自然な形での開始の仕方について研究していかな

くてはならないと思う。最後に議員証と標柱をプレゼントしたが、ほかにできることがないか、また、参加学年層の幅が広いため、クイズ内容について、さらには広報の方法についてより検討が必要であると感じている。活動報告については、広報部会へ提供させていただき、市議会だよりの掲載について連携をとっていきたいと思っているのでよろしく願う。

<三上副委員長（広報部会長）>

明智かめまる君が登場のあと議員が話をするとギャップがはげしくなってどうかと思う。質問コーナーについては親子で事前に考えていただくような仕掛けをしておくとういと思う。また、数組の市職員家族の参加があり、声掛けもあったのかと思っている。

<松山副委員長（広聴部会長）>

申込み期間締切り間際には13人の応募があり、個別に案内をして合計17人の参加となったが、人数的にはちょうどよかったと感じている。

<三上副委員長（広報部会長）>

2回目に参加いただいた小学生は、前回トップバッターで泣き出してしまい、登壇体験ができなかったが、今回できたのでよかったと思っている。

13:20

3 わがまちトークについて

<松山副委員長（広聴部会長）>

「わがまちトーク」について、当日の役割を別紙②のとおり広聴部会で決定したので報告する。10月8日（火）「かめたんレザミ t e t o t e（各種団体版）」及び11月7日（木）「はたちの会実行委員会（各種団体版）」とのわがまちトークについては、広報広聴会議委員で対応したい。10月18日（金）「本梅町自治会（自治会版）」とのわがまちトークについては、各常任委員会で決定の応援議員を含めての案として作成している。なお、当日の記録として、録音はせず、議会のファシリテーション研修で実施したように、模造紙と付箋を使用して、できるだけ多くの意見を徴取し、話し合う形を取りたいと思っている。意見の中でどうしても要望されることがあるが、その要望については、必要に応じて常任委員会へ振り分ける中で、対応していきたいと考えている。

<三上副委員長（広報部会長）>

模造紙や付箋を使い視覚化することは、参加の皆さんが意見を書いてもらえるのでよい方法だと思う。そうすると筆記係はすべてを細かく記載するよりも気になることや重要なことをメモしてもらう感じでよいと考える。

<松山副委員長（広聴部会長）>

ファシリテーターは広報広聴会議委員、筆記は常任委員会の応援議員を中心に選定しており、筆記係も会話の中に入ってもらえればと考えている。

<竹内委員>

集合時間等詳細はどうか。

<事務局次長>

9月27日に本梅町わがまちトークに係る従事者会議を開催して詳細を伝えることとしている。10月2日に広聴部会を開催し、かめたんレザミ t e t o t e とのわがまちトークについての協議を行う予定であるが、そのあとに広報広聴会議を実施するかどうかはお諮りいただきたい。

<三上副委員長（広報部会長）>

広報部会の協議が長くなるため、決定事項を伝達いただければよいと思う。

<松山副委員長（広聴部会長）>

広報部会にはしっかりと情報提供させていただく。

<三上副委員長（広報部会長）>

わがまちトーク本番に急用で出席できなくなる場合もあるため、グループの数を減らすなど臨機応変に対応すればよいと思う。

<片山委員>

本梅町との調整はどうするのか。

<事務局次長>

基本的には事務局のほうで適宜調整させていただく。

13：44

4 議会基本条例検証に係る広報広聴会議での検討事項について

【別紙③により事務局次長説明】

○議決後の状況を早く公開するべき。（新清流会）

<法貴委員>

議決結果は早く伝えるべきで議決後すぐにFacebookにアップするようにすればよいと思う。

<松山副委員長（広聴部会長）>

Facebookは議員がしているが、ホームページは誰がいつ更新しているのか。

<事務局次長>

事務局のほうで議決日の翌日には更新するようにしている。

<三上副委員長（広報部会長）>

速報性があるのはFacebookだと思っており、休会後速やかに議決結果とそのうち賛否が分かれた議案が何か分かるように更新すればよい。

<大塚委員長>

本会議に係るものは、私が今の内容で休会の当日中にFacebookにアップしている。今一度確認しておきたいが、各部会の行事は誰がアップしているのか。

<竹内委員>

広報部会に係るものは副部会長の私がしている。

<松山委員>

それでは広聴部会に係るものは山木副部会長にお願いする。

<大塚委員長>

議決後の結果周知については現状の形を続けることでよいか。

—全員了—

○YouTubeチャンネルの撮影、編集、配信を議員も手掛けられるようにする。
（共産党議員団）

<三上委員>

現状はすべて事務局がしているため、9月議会終了後に広報広聴会議委員にやり方を説明いただき、段階的に議員も編集等ができるようにしていけばよいと思う。

<片山委員>

研修して議員による作業ができるようにすることは賛成であるが、視聴回数が少なく、もっと見てもらえる工夫が必要だと思う。

<竹内委員>

Y o u T u b e をアップすれば F a c e b o o k でお知らせするなどの方法もあると思う。

<大塚委員長>

まず、事務局から研修を受けることで進めてよいか。

—全員了—

○ F a c e b o o k 以外の SNS 発信について検討してはどうか。他市では X（旧 T w i t t e r）、I n s t a g r a m などを取り入れているところがある。（共産党議員団）

○ 議会 SNS として、これまでの F a c e b o o k に加えて I n s t a g r a m など新たな情報発信を検討してはどうか。（公明党議員団）

<三上副委員長（広報部会長）>

F a c e b o o k と I n s t a g r a m は連携できるので、現状の F a c e b o o k に記事をアップすれば、I n s t a g r a m にもアップすることは可能と思うが、導入するかどうかは議論が必要だと思う。

<林委員>

両者は連携することができ、片方にアップすればもう片方にも掲載されるので作業量が増えることはなく、できるだけ多くの人に見てもらうためにはどちらも採用してもよいかもしれない。

<松山副委員長（広聴部会長）>

X はレスポンスが早く市議会の情報ツールとしてはなじまないと思う。I n s t a g r a m に手間がかからないのであれば、導入してもよいかもしれない。

<竹内委員>

X は拡散能力が高く、Y o u T u b e に動画を編集したときに、ハッシュタグをつけて、それも単に亀岡市議会ではなく、例えば不登校対策といったそのときのテーマのハッシュタグをつけると関心のある方に視聴いただけるかもしれないので、そういった使い方がよいと思う。

<山木委員>

最近では F a c e b o o k、I n s t a g r a m とともに字を使うことが少なくなり、ストーリーで画像を流すことで発信することが増えている。そのように時代にあった発信の仕方を取り入れていく必要があると思っている。

<林委員>

I n s t a g r a m は若者の利用が多く、誰に対して発信していくのかを考えなくてはならない。

<大塚委員長>

F a c e b o o k と I n s t a g r a m が連携可能であることから、その導入をしてもよいのではないかということ、X は利用状況から議会の発信ツールとしてはなじまないのではないかといった意見があった。広報広聴会議としては I n s t a g r a m を導入していく考えとし、議会全体の協議の場で決定していただくことでよいか。

—全員了—

○傍聴に行ってみようと思っただけの新たな取組を検討してはどうか。（公明党議員団）

<林委員>

ほかの議会では、高校生に一般質問の日程を知らせるポスター制作を依頼しているところもあり、高校生にとってもよい経験になると思う。

<三上副委員長（広報部会長）>

授業の一環では難しく、美術部に依頼するにしても調整が必要ですぐにはできないかと思うが、Facebookにバナーをつくって知らせるなどは予算もかけずにできると思うので、今後検討していけばよい。

<竹内委員>

事前にFacebookに予定を発信してはどうか。また、市のホームページの議会における傍聴案内の写真のリニューアルなどを検討する必要がある。

<梅本委員>

平日の時間に余裕があり、傍聴に来られる方をターゲットに工夫をしないとけない。

<松山副委員長（広聴部会長）>

この案件は広報広聴会議ですか。

<三上副委員長（広報部会長）>

新たに予算が必要な案件は広報広聴会議ではなく、議会として取り組むべきである。予算をかけずに既存のものを使ってできること、例えば先ほど言ったバナーの作成や行事の予告などは広報広聴会議で取り組んでいけばよいと思う。また、委員が動画に出演して会議場所への動線を案内することやチャンネル登録を依頼するなどの工夫も必要と思う。

<大塚委員長>

現状できることは広報広聴会議で進め、予算や調整が必要な範囲のことは議会として全体で協議いただくことでよい。

—全員了—

○全エリア（全ての町）の年度ごとの課題を挙げていただき、情報をまとめて議会と共有し、ネットなどで市民にも公開（達成度など、都度発信しながら）してはどうか。（かめおか党）

<竹内委員>

この項目は議会運営委員会で取下げをしたので検討いただかなくてよい。

○早期に全ての会議をネット配信すべきである。（新清流会）

○常任委員会については全てYouTube配信してはどうか。（亀岡有志の会）

<三上副委員長（広報部会長）>

まず月例常任委員会のYouTubeへの編集作業を議員ができるようになることが第一で、ほかの会議は順次検討していけばよい。

<大塚委員長>

その方向性でよい。

—全員了—

5 そ の 他

<大塚委員長>

次回の開催予定等について事務局から説明願う。

<事務局次長>

わがまちトークの参加メンバーなどについて、9月10日開催の議会運営委員会にて、大塚委員長から報告していただく予定である。次回広報広聴会議は12月議会議案提案日の11月21日に開催の予定である。

<大塚委員長>

特になければ、広報広聴会議を散会する。

散会～14：55